

<教育利用> ⑧ 情報 I「生成AIと知的財産権の将来を考える」

1 学年・情報科・情報 I
 単元：アルゴリズムとプログラム
 ChatGPTを教員が活用

2つの主張を整理

2つの文章の関係	キャラが似ている場合	タッチや作風について	違っている理由
一致していること	著作権に違反している 著作権に違反している	著作権が発生しない 著作権が発生しない	
違っていること	規制が必要 新たな規制は必要ない Aさんの言っていること Bさんの言っていること	人間も同じように過去の事例にインスピレーションを得るため、似てくることは避けられない	AはAIを人間に近いものと考えている節がある Bはあくまで人間が使うものとして考えている BはA！はA！だと考えている
どちらか片方だけが言っていること	規制をなくして著作権を認めれば、創作の自由が広がる	著作権を学習すること、国産の著作権の学習には必要	

「③生徒が見出した矛盾している理由」の分析

10個のグループ（各4人）が見出した矛盾した理由を分類した。

理由	見出したグループ数
人間とAIを同一視するかどうか	4
より良い著作物か著作権者の権利か	1
AIの進化か著作権者の権利か	2
AIそのものに対する姿勢の違い	2
違いの記述に留まる／理由なし	3

Bさんは著作権を大事にする考え方で、Aさんはよりよいものを作っていくことを大事にする考え方だから。

○授業の目的

・生成AIの普及によって生じる問題点を通して、知的財産を保護する法律の将来を考える。

○生成AIの活用方法

・生成AIの仕組みと、簡単にキャラクターを模した画像が作成できるなど、知的財産権から見た問題点を理解する。

・生成AIの普及により、知的財産に関する法律や規制が新たに必要だと主張する文章と、必要ないと主張する文章を比較し、どうしてそのような考え方の違いが生まれたか考察する。

・新たな規制が必要と考えるか、不要と考えるか、理由をつけて自分の言葉でまとめる。

○生成AI活用のメリット・デメリット、指導上の留意点等

・生成AIを題材にすることにより、現在の法律を知る学習にとどまらず、未来の社会や法律のありかたを考察させることができた。